

最近の消費動向（個別ヒアリング）

個人消費は、前半に気温が高めに推移したが、後半は気温の低下や年末商戦が奏功したこともあり、12月の大型小売店の売上高は前年同月を上回った。大阪産業経済リサーチセンターでは、消費動向を把握するため、百貨店2社、スーパー2社を対象にヒアリング調査を行った。

百貨店では、後半からの低気温により、コートなどの冬物アウターをはじめ、防寒グッズといったシーズン商品の動きが堅調であった。スーパーでも、高機能性インナーなどの動きは堅調で、クリスマス、お節料理などの季節商戦も好調であった。また、燃焼系（ガス・灯油）の暖房器具、空気清浄機、使い捨てカイロなどの売れ行きが好調であった。

百貨店A社

12月の売上げ状況をみると、前半は売上が伸び悩んだものの、後半の気温低下によって冬物のアウターのほか、防寒グッズなどの動きが好調となったことから、売上高は前年同月比で微減にとどまった。

***紳士服**：コートやブルゾンなどの冬物のアウターをはじめ、カジュアル関連、靴、ラグジュアリーブランドなどが好調に推移し、全体では微増となった。

***婦人服**：月前半は売上が伸び悩んだものの、月後半はダウンコートなどに動きがみられ、前年同月比は微減にとどまった。また、ラグジュアリーのコートやドレスなども動きが見られた。

***子供服**：クリスマス商戦の売上げは前年を上回り、入学・卒業式用フォーマル服も堅調であった。また、月後半はセーターやカーディガンが出回った。

***食料品**：生鮮食品、惣菜、グロッサリーなどを中心に売上げが減少した。お歳暮、お節料理の予約は前年をやや下回り、クリスマスケーキもやや苦戦した。

***化粧品**：美容液は前年を大きく上回ったが、美白商品、メイキャップなど他のカテゴリーは前年同月比で減少した。

***シーズン雑貨**：手袋は前年を上回ったものの、ネックウェアは伸び悩んだ。ただし、月後半の気温の低下で、ストールなどととも防寒グッズが持ち直した。

***食器**：いずれも前年同月で減少したが、インテリア関連の特選食器、酒器、ホームパーティー用食器が堅調であった。

百貨店B社

12月の売上げ状況をみると、前年同月で微減となった。後半の低気温の影響もあり、シーズン雑貨をはじめ、クリスマス及びお節料理などの年末商戦で売上げを確保することができた。

***紳士服**：全体では前年同月を下回った。シャツ、パンツなどのカジュアルウェアは好調だったが、ネクタイ、ワイシャツ、靴などビジネス関連は苦戦した。

***婦人服**：月前半は売上が伸び悩んだが、後半はダウンコートなどの動きが活発となり、全体の売上げは微減にとどまった。また、雑貨ではロングブーツが好調だった。

***子供服**：雑貨・玩具、防寒着の動きが良かったが、マタニティ・ベビーが減少したことから、全体では前年同月を下回った。

***食料品**：気温の低下や好天が続いたことから、中旬以降は鍋の具材や鮮魚の動きが活発となった。また、精肉もほぼ回復するなど、全体では前年並みとなった。

***化粧品**：低気温や乾燥などもあり、スキンケア、ボディケアが増加し、全体では前年同月を上回った。

***家具**：一般家具のほか、北欧家具ともに前年同月を大きく上回った

***シーズン雑貨**：中旬頃から手袋やファーの動きが好調で、ほぼ前年並みとなった。

スーパーA社

12月の販売状況をみると、ほぼ前年並みとなった。衣料品では高機能性インナーなど冬物商品のほか、ホームウェアなどの動きが活発となり、売上げは前年同月で微増となった。食料品では、土物野菜などがやや苦戦し、住居関連でも液晶テレビ、レコーダーの単価下落や、エアコンの反動減などもあり、前年同月比横ばいにとどまった。

来店客数は、衣料品でのみ増加したが、買い上げ点数は住居関連で前年を上回り、顧客単価は衣料品、食料品でプラスとなった。

***衣料品**：月後半からの気温低下で、高機能性インナーのほか、メンズ・ジーンズ、レディース・ホームウェア、メンズ・カットソーなどが増加した。一方、低気温にもかかわらず、ダウンやハーフといっ

たコートの動きが不振となり、メンズ・スラックス、長袖Tシャツなどの動きも鈍かった。なお、長引く円高傾向による海外旅行の人気などから、小ぶりのキャリーバッグや大型のスーツケースなどトラベルバッグが好調を続け、ランドセルも堅調に推移した。

***食料品**：昨年高値で推移した反動により、じゃがいもやたまねぎなどの土物野菜などの売上げは低迷したが、中旬以降は出荷量の減少に伴い相場が上昇し、売上げはやや改善した。米は価格の上昇に伴い売上げが増加した。クリスマス商戦では、もも肉、オードブル、シャンメリーが好調であった。お節料理は高額及び低価格商品は堅調に動いたものの、ボリュームゾーン商品の動きが鈍かった。個別商品では、スライスベーコン、チルド半製品、たらこ明太子、袋ラーメン、小物飲料などが増加したが、キャベツ、おこわ、たまねぎ、かに、天ぷらなどが減少した。

***住居関連**：液晶テレビとレコーダーは、台数では前年を上回ったが、単価の下落により売上げは前年比マイナスとなった。また、エアコンは前年のエコポイント効果の反動減により、不調となった一方、冷蔵庫は販促が奏功して大幅に増加した。個別商品では、空気清浄機、電動自転車、カイロ、石油ファンヒーター、フライパンなどが増加し、掃除機、液晶テレビ、モップ、クッションなどが減少した。

スーパーB社

12月は前半の気温が高く、冬物が苦戦したものの、セールなども奏功し、中旬までの売上げは前年並みとなった。後半は急激な気温の低下から、紳士服が好調な衣料品、デリカ（洋風惣菜）やリカーなどが好調な食料品、毛布や空気清浄機、加湿器などが好

調な住居・余暇関連それぞれで、ほぼ前年並みの売上げとなった。

来店客数は、衣料品、食料品、住居・余暇関連いずれも月間を通して前年並みとなった。なお、顧客単価は、月前半において各々微減で推移した。

***衣料品**：月前半は高気温もあり、冬物商品全体の動きはあまり良くなかったものの、四半期ごとに行うセールの効果などから、紳士ダウンジャケットやフリースジャケット、機能性肌着といった紳士服が好調であった。月後半は気温が低下し、上記商品を中心に売上げを伸ばし、全体ではほぼ前年並みとなった。

なお、正月商戦については、子供服の福袋の売れ行きが良かった。

***食料品**：品揃えの専門化を進めている分野の1つであるデリカやリカーは、月間を通じて売上を伸ばした。一方、冷凍食品や刺身はこの数か月好調が続くものの、刺身以外の鮮魚関連は苦戦した。

季節商戦では、有名パティシエ（菓子職人）特製のクリスマスケーキのほか、自家消費を想定して有名店のスイーツなどを強化したお歳暮、プライベートブランド品を投入したお節料理がいずれも好調で、売上げは前年を上回った。

***住居・余暇関連**：冬季における省エネ・節電の呼びかけもあり、秋頃から動きがあった毛布（着用型毛布を含む）、敷きパッドのほか、ガス暖房機、石油ストーブ・ファンヒーターなどが月前半も引き続き堅調に推移した。月後半は本格的な冬の到来で、上記商品に加えて、空気清浄機、加湿器、エアコンなどが前年を大きく上回った。

このほか、風邪薬、うがい薬、マスクなどの医薬品関連や、使い捨てカイロの売上げも増加した。

大阪府の消費に関する経済指標

(単位：百万円、台、%)

		23年					
		7月	8月	9月	10月	11月	12月
大型小売店計	販売額(全店ベース)	160,238	130,712	127,379	138,416	144,143	188,478
	(前年同月比、既存店ベース)	0.2	-2.9	-3.1	-1.1	-2.1	2.8
うち百貨店	販売額	84,423	59,334	60,248	67,829	73,816	101,322
	(前年同月比、既存店ベース)	1.4	0.2	-0.7	1.3	0.1	2.4
うちスーパー	販売額	75,814	71,379	67,131	70,587	70,328	87,156
	(前年同月比、既存店ベース)	-1.1	-5.3	-5.0	-3.3	-4.3	-2.3
コンビニエンスストア販売(近畿)	販売額	121,019	120,118	109,736	112,169	107,772	114,713
	(前年同月比、既存店ベース)	8.3	6.4	-5.9	12.8	6.5	3.0
	(前年同月比、全店ベース)	10.8	8.9	-3.5	15.3	9.4	6.5
乗用車新車販売	台数	15,640	14,871	21,681	16,546	16,957	15,454
	(前年同月比)	-27.2	-22.5	-2.1	21.2	22.4	19.9
家電販売(近畿)	(前年同月比)	14.6	-32.8	-26.8	-44.1	-63.3	...

資料：【大型小売店販売額】近畿経済産業局「管内大型小売店販売状況」。前年同月比は店舗調整済の値。

【コンビニエンスストア販売額】近畿経済産業局「管内大型小売店販売状況」(参考資料)。

【乗用車新車販売台数】(社)日本自動車販売協会連合会、(社)全国軽自動車協会連合会。

【家電販売額】近畿経済産業局「近畿経済の動向」。